

## 新聞を身近なメディアとしてとらえ、自らの課題を発見することができる新聞活用

指定校 2 年次 北安曇郡松川村立松川中学校 黒岩 理恵子

### (1) 日常の授業に生きる新聞活用

○生活記録から、様々な教科への発展

N I E 実践指定校となる数年前より、日々の生活記録へは生徒の日々の思いを書くだけでなく、新聞の記事からテーマを決め、それについての感想を書く活動を続けてきた。その中から、教科学習に発展していくケースが多々あった。

#### 社会科へ

「北方領土問題」「参議院選挙」では、テーマに対して自分の考えを書くことが難しかったため、急きよ、社会科の授業として学活で扱ってもらった。教師主導の授業ではなく、生徒の疑問に答える授業であったので、生徒の興味や関心も大きく、真剣に授業に取り組む姿が見られた。

#### 国語科へ

「メディア社会に生きる」という単元では、生徒たちは日頃から新聞というメディアに触れていることもあり、メディアの特徴や問題点を文面からすぐに読み取ることができた。オリンピックの報道で、スノーボードの国保選手の報道の仕方から、メディアの危険性を学んでおり、メディアリテラシーについても自分たちの経験を踏まえて読み取っていた。

「新聞について学ぼう」という単元では、新聞の紙面の見方や全国紙と地方紙の報道の仕方を学んだが、常に新聞に触れているので、教科書を読むまでもなく、すでに生徒たちは理解していた。

#### 総合的な学習へ

「普天間移設を辺野古に決定」という記事から、「沖縄の人々の怒り」について考えさせたが、鳩山首相の公約違反に対する怒りであるとしか理解できず、5月24日近辺の新聞をスクラップさせ、普天間基地問題についての記事からヒントを得て、深く考えさせようと試みた。しかし、全国紙や地方紙（信毎）からは、沖縄県民の本当の怒りの意味が読み取れなかった。そこで、偶然にも人権講演会で学校に見えた伊波敏男さん（作家、沖縄県出身で上田市在住）から、沖縄県の歴史や沖縄戦、基地のある実態をお聴きし、沖縄県民と長野県民の基地や平和に関する温度差を痛感し、自分たちにも何かできないか、クラスの中で話し合いを持った。そして、辿り着いたのが、沖縄のことを調べてまとめ、長野県の中学校に配る目的で「沖縄新聞を発行しよう！」という学習活動であった。総合学習の全44時間をかけて取材と記事作成を行った。タブロイド判の全12ページで、生徒全員が執筆した。不思議な偶然の出会いの連鎖、長野県N I E推進協議会のサポート、新聞やテレビの報道にも支えられ、6カ月をかけて完成。普天間中へのアンケートの考察、大田昌秀元沖縄県知事へのインタビュー、

沖縄の経済や歴史、松代大本営との関係、三線やお墓、チンスコウのレシピから書評まで、多彩な内容となった。12月8日に発行し、長野県内の全中学校に発送した。

## (2) 学級作りとしての新聞活用

### 学級通信（学級作り）へ

生徒たちの感想は、学級通信「たけのこ」に掲載している。友だちの考えを知ること、ひとつの社会事象に対して様々な考え方があることを知り、同時に、さらに深く考えるヒントとなっている。また、表現力の向上にも繋がっている。

## (3) 国語科での取り組み

2年 意見文の題材としての新聞活用

（脳死判定による臓器移植・高速道路無料化・消費税増税・3Dテレビなど）

1年 「大人になれなかった弟たちに……」

豊かな読解につなげるため、新聞記事から戦争に関する記事をスクラップし、戦争当時の状況の理解を深めた。

## (4) 校内での実践の広がり

昨年度に引き続きNIE実践指定校であるので、3学年や生徒会を中心に、以下のようにNIE活動の広がりを見せている。

- 毎日の生活記録のテーマを新聞から探し、それについての自分の考えや感想を書く。（3年）
- 生徒の新聞記事への感想を学級通信に載せた。（3年）
- ハッピーニュース2009へ応募。2名が書籍（心がぼかぼかするニュース）に掲載され、今年度の7月に出版された。
- 信濃毎日新聞山崎さんとNIEアドバイザーの江澤先生による出前授業。（3年総合的な学習）
- 教室に新聞コーナーを設け、生徒がいつでも手にとって新聞を読めるようにした。（3年）
- 読売新聞や信濃毎日新聞のワークシートを職員室内で回覧した。  
必要なワークシートを道徳や社会の授業で活用した。（全校）
- 信濃毎日新聞の投稿欄に、5名の生徒が掲載された。
- 生徒会では
  - ・新聞作成ソフトによる「生徒会便り」の発行
  - ・「ちひろ美術館ボランティア」での生徒の活動を新聞形式にまとめ
  - ・広報委員会による昇降口近くの掲示板への朝刊の掲示
  - ・広報委員会が発行するクラス新聞を、新聞形式に変更

## (5) 授業の実践 その①

◆教科：総合的な学習 学級：松川村立松川中学校 3年C組（男子19名 女子13名）

授業者：黒岩理恵子（3年C組担任）

◆題材名：「沖縄新聞を発行しよう！ ～長野県の中学生に、沖縄について知ってもらおう～」

総合的な学習 全44時間

### 1・題材設定に至るまで



5月29日沖縄タイムス1面の写真 写真提供：沖縄タイムス

3年C組は、2年時より、「生活記録（日記）」に生徒の日々の生活や思いを書くだけでなく、新聞の記事からテーマを決め、感想を書く学習を続けてきた。このような継続した学習から、単に生活記録に感想を書くだけでなく、教科学習や学級活動へと発展して行くケースが多かった。

5月24日のテーマは「普天間基地辺野古に移設決定。沖縄の怒り再び」。いつも通り彼らが書いてきた感想に

目を通していき違和感を覚えた。普段は個性豊かな感想を書いてくる生徒たちが、一様に「鳩山さんが公約違反をしたから沖縄の人々は怒っている」と書いていたからである。

これは彼らが新聞をきちんと読んでいないのが原因ではないかと考え、学校に届いていた全国紙や地元紙など4紙より、沖縄に関係する記事のスクラップをさせたが、「沖縄の人々の怒りは、鳩山首相の公約違反に対してである」という内容が目立つ。また5月28日の「日米合意」の報道では、教室に届いていた4紙の1面すべてが「福島罷免」を大きく取り上げ、福島さんと鳩山さんの困惑した表情を伝えていた。一方、ウェブで検索した沖縄タイムス紙の1面は、「怒！」のカードを掲げる人々の様子を伝えていた。

本土の新聞と沖縄地元紙とでは、報道の内容が違うのではないかと、沖縄の人たちは、この基地問題を本当はどう考えているのか。生徒も担任も知りたくなり、すぐに沖縄タイムスを取り寄せた。



伊波敏男さんと

同じ時期、偶然本校に人権講演会でみえた元ハンセン病患者であり、信州沖縄塾長の伊波敏男さ

んから、沖縄の歴史や沖縄問題、基地負担を強いられてきた沖縄の方々の思い、本土への伝わらないもどかしさや切なさをお聞きすることができた。伊波さんとの出会いは、当初全く沖縄に興味がなかった生徒たちに衝撃を与えた。そして自分たちにできることは何か考えた結果、「沖縄について調べて、せめて長野県内の中学生に沖縄のことを知ってもらうために、新聞を作って配布しよう。」という意見が生徒たちの中から出た。N I E実践校として、新聞は彼らにとって身近なメディアだったようである。

## 2・題材の展開

6月から11月までの全44時間の総合学習の授業で、「沖縄新聞」作成が行われることになった。2000部を印刷し、県内200の中学校に配る予算には、日本教育科学研究所の研究実践校としていただいた助成金を当てた。タブロイド判12面の内容は生徒たちが話し合いで決め、各紙面の担当も生徒たちの意志を優先して決めた。

まず、伊波さんの紹介で、長野県内に住む報道カメラマンの石川文洋さん、沖縄戦の語り部の親里千津子さん取材することができた。



偶然長野を訪れていた元ひめゆり学徒隊の島袋淑子さんや鉄血勤皇隊員だった元沖縄県知事の大田昌秀さん、沖縄のシンガーソングライターのユキヒロさんの取材もできた。本校は、村内にある「安曇野ちひろ美術館」と長年連携した教育をおこなっていることもあり、「沖縄ちひろ展」の取材もした。



この学習活動が沖縄タイムス紙や琉球朝日放送で報道されたことがきっかけで、「集団自決」を経験された宮城恒彦さんや、宮森小ジェット機事故の関係者の方々など、沖縄の方から多くの資料を提供していただくこととなった。たくさんのお会いの中で、沖縄と本土との温度差、そして、沖縄の方々の伝わらない思い、高齢化している戦争体験者の伝えたい思いを、生徒も私も身をもって感じていった。

また普天間中学校の3年生からのアンケート結果から、報道からは知り得なかった基地周辺に住む苦悩や米兵に対する考えを知り、生徒たちは「国の問題を、沖縄だけのことと、他人事のように考えてほしくない」という沖縄の同年代の思いを、なんとしても長野県内の仲間にも伝えたいと考えていったようである。



長野県N I E推進協事務局長の山崎竹宣さん

取材の仕方に始まり、記事作り全般にわたって、長野県N I E推進協事務局長の山崎竹宣さんに指導していただいた。取材にみえた沖縄タイムス記者与那原良彦さんからは沖縄問題の調べ方について、信濃毎日新聞記者の黒沢大生さんやフリーライターの金井奈津子さんからも記事作成のアドバイスを、そして琉球朝日放送記者の金城正洋さんからは沖縄方言の温かなメッセージをいただいた。

この学習を通して、何より生徒や私の財産となったことは「人との出会い」である。N I Eは地域と繋がるだけでなく、広く世界と繋がっていけるということを実感した。そして、たった6カ月ではあったが、記者という職業の苦労や報道の過酷さを生徒たちなりに実感し、改めて報道される方々への感謝の思いを持った。

長野県内の中学校からは、「沖縄新聞」への感想がたくさん届いた。「沖縄の基地問題について初めて知り、驚いた。」「沖縄にはこんな悲惨は歴史があるなんて知らなかった。」「沖縄についてちゃんと考えたい。目を向けていきたい。」「平和について、しっかり考えたい。」といった感想が多く寄せられた。中には「世の中のメディアは、本当のことを伝えないと分かった」という感想もあった。

また、豆記者として新聞作りを体験し、情報の送り手ともなり、期せずして取材を受けて報道される立場ともなった生徒たちは、学習への充実感を覚えるとともに、「私たちはごく普通の中学生。たった12面の新聞作りはどこの中学生にもできるはず。ましてや大人なら、もっとさらっとできると思うのに、どうしてこんなに騒がれるのか不思議です・・・」とも感じていた。



取材に来た琉球朝日放送

### 3・成果

「沖縄新聞」作りの実践では、クラスの生徒の構成員の特徴に合わせて、紙面を作成した結果、全員が自主的に学習活動を進め、満足感を得ることで、学習への達成感を持った。とくに、基礎・基本の力が高い生徒たちにとっては、高度な情報活用力、思考力や表現力を要求される紙面作りは、学習に対するあらたな見方・考え方を獲得することができると思える。

また、学力の向上がみられた。新聞を読んだ各方面の方から、文章表現力の高さを評価された。3年

C組の、2年次からの定期テストの得点や学年順位を追ってみると、5教科 300 点以上を獲得する生徒の得点が、さらに著しく伸びている。思考力が高まった結果、各教科での得点力も伸びてきたと考えられる。

## 実践授業 その②

◆教科：国語 学級：授業学級 1年B組（男子 16名 女子 21名 合計 37名）

授業者： 黒岩理恵子

◆単元名：「大人になれなかった弟たちに……」

◆国語科研究テーマ

考えを分かりやすく説明し、友の考えと関連付けながら、自分の考えを深めていく生徒の育成

### 1・本単元で新聞を活用する理由

戦後 65 年が経ち、実際に戦争を体験した方が年々いなくなっている。10 年ほど前に本単元を扱った際には、生徒の祖父母から戦争体験を聞くことができたが、戦争体験を直接聞く機会が少なくなり、作品の背景をつかんだり登場人物の心情を考えたりすることができにくくなってきている。

そこで、8月上旬から中旬にかけての新聞紙面から、実際の戦争体験を語っている方々の記事などを抜き出し、物語の叙述だけでは理解しにくい当時の食糧事情や様々な状況を捉えさせ、より豊かな読解につなげていきたいと考えた。

### 2・単元の目標と評価

単元の目標	評価の観点
○作品の背景にある時代状況や家族のあり方などを通して、作品に興味をもつことができる。 (関心・意欲・態度)	・ <u>作品の背景にある戦争という状況について、新聞で調べて理解しようとしている。</u> ・自分自身の家族に対する思いや、母の涙、強さ、優しさなどを思い起こし、作品に対する興味や共感を高めている。
○作品の中の語句の意味を理解し、表現に注目して、登場人物や作者の思いをとらえることができる。(読む・言語)	・表現の特徴から、人物の思いや作者の思いに気づき、まとめていこうとしている。 ・作品の中で使われている語句の意味を理解しようとしている。
○新聞記事から必要な情報を集めるための方法を身につけ、目的に応じて必要な情報を読み取ることができる。(読む)	・ <u>戦争中の生活を知るために、たくさんの戦争に関わる新聞記事から必要な部分を探している。</u>
○作者の思いにふれ、自分のものの見方や考え方を広げさせる。(読む)	・作品を通して心に残ったことをまとめ、話し合ったり発表したりしている。

3・単元展開

	学習活動	指導	評価基準(評価方法)	
第一 次 (読み取り①)	1 全文を読み意味調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本で読み聞かせをする。</li> <li>・感想から「僕」がヒロユキのミルクを何回も盗んで飲んでしまった点を中心にまとめさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     正義感の強い生徒たちなので、どんな状況でも、人のものを盗むことはいけないことだと考えるだろう。                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>ワークシート</b> </div> 語句の意味を調べ、例文を記入している。 自分と重ね合わせ、感想を記入している。(学習カード①)	1
	2 「母」「僕」「しんせきの人」に視点をあて、感想を書く。			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>発表</b>                      初発の感想を発表しようとしている。                 </div>
第二 次 (情報収集)	3 「母」の言動から心情を読み取り、ミルクを盗んで飲んだ「僕」や「しんせきの人」の言動を許せるか否か考える。			3
	4 戦争中の様子が分かる記事をスクラップし、生活や食事などについての記述に印を付け、そこから考えたことを書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内でスクラップした記事を、原爆とそれ以外の記事に分ける。</li> <li>・生活や食事に関する部分に印をつけ、それぞれの記事に全員で感想を記入させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>ワークシート</b> </div> すずんで記事を探そうとしている。 生活や食べ物について分かる文に印をつけ、自分の考えを記入している。(スクラップ)	4
5 情報を整理し、グループ内で共有する。	6			
第三 次 (読み取り②)	6新聞から得た情報をグループ毎にまとめ、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞の記事から、戦争中の生活や食料事情をグループごとにまとめさせる。</li> <li>・分かったことを発表させる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <b>画用紙・話し合い</b> </div> 分かったことを、自分から発表しようとしている。	7 (本時)
	7「僕」がミルクを盗み飲みした行動と心情について考える。			
	8 題名や名前に込められた作者の思いを読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「弟たちに」という言葉から、戦争で死んでしまった多くの人たちへの思いや、悲しみを考えさせる。</li> <li>・名前を「ヒロユキ」と片仮名で書いた意味を考えさせる。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>ノート</b>                      題名や名前について、自分の考えを記入している。                 </div>	8

平成22年度「総合的な学習の時間」「NIE実践」の展開

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学期	一学期				二学期						三学期		
スライド	前期16週				中期11週				後期11週				
行事等	入学式・始業式 3年修学旅行 1・2年レッツスタート	※のりご摘花作業 生徒総会①	大花壇・プランター 中間テスト 北安曇体育大会	※人権講演会 期末テスト 終業式 1年自然体験・2年登山 (ちひろボランティア)	始業式 総合テスト①	※2年職場体験学習 中間テスト(総合②)	松葉祭・陸上CM 総合テスト③	※ボランティア講演会 期末テスト(総合④)	保護者懇談会 生徒総会② 終業式	始業式 総合テスト⑤ 公立前期選抜	期末テスト(総合⑥) 公立後期選抜	バスケットボールCM 3年生を送る会	終業式・卒業式
1年	4月 5月 5~7月 1月~	レッツスタート(人間関係力、意志決定力) ちひろ大花壇定植作業(ボランティア) 自然体験学習 高校調べ・職業調べ(情報活用力、意志決定力)											
NIE	9月~	「新聞に親しむ・新聞スクラップ作成」(情報活用)											
2年	4月 5月 8月 9月 1月~3月	レッツスタート(人間関係力、意思決定力) プランター作り(ボランティア) 職場体験学習 生徒会引き継ぎに向けて 修学旅行(人間関係力、情報活用力)											
NIE	通年	「新聞から学ぶ・生活記録へ、時事問題への感想をかく」(情報活用)											
3年	4月	修学旅行(人間関係力、意志決定力)											
NIE	4~5月 6~12月	「新聞を作る・修学旅行記作成(情報活用力、表現力) 「新聞を作る・クラスで新聞を発行しよう(情報活用力、人間関係力、意志決定力、表現力)」											